

視聴覚教育

NO. 496

発行日 R7. 3. 7

発行

岡崎市 A V L

編集

現職研修委員会
学習情報部

これ知ってる!?

【アクセシビリティ】

サービスや製品における「利用しやすさ」を高める機能、およびその尺度。Web ページの音声読み上げ機能や、PCのアイコンや文字の拡大表示機能など、幅広い人々が使いやすい状態にすることを目的とする。

II 視聴覚教育あれこれ II

● 自作視聴覚教材が完成しました

「おかげさまで映像教材研究会」が教材を完成させました。今年度の作品は、理科教材が一本、社会科教材が二本、道徳科教材が一本です。教室PCから簡単にアクセスできるようにしました。積極的に御活用ください。

● 作品・班員の紹介

A 班「くらしの中のレンズ」光の性質を利用して」

- 山本悠司 (矢北小) 服部将也 (豊富小)
- 島田 豪 (広幡小) 米澤和志 (大門小)
- 杉山康子 (常磐小) 高木 薫 (小豆坂小)
- 神谷明彦 (三島小) 渡邊実咲 (豊富小)
- 佐藤雄太 (広幡小) 太田尚志 (竜海中)

B 班「持続可能なオクオカを目指して」

- 忠内亮太 (岡崎小) 長瀬太一 (大樹寺小)
- 大塚真悟 (恵田小) 山口隆寛 (南 中)
- 加藤 明 (常磐東小) 松浦圭祐 (額田中)
- 藤瀬俊旭 (新香山中) 中山美奈子 (常磐南小)
- 近藤雄一 (大樹寺小)

C 班「おかげさきの石工技術を守る」

- 酒井雄一 (甲山中) 森 綾子 (六美中)
- 保田晴香 (本宿小) 里見涼多 (東海中)
- 浅井博規 (梅園小) 安原宏紀 (井田小)
- 峯澤泰季 (井田小) 石川晶善 (藤川小)
- 廣藤静香 (大門小) 手嶋夕菜 (甲山中)
- 佐渡英彰 (広幡小)

D 班「ゲームとの付き合い方」

- 浅井悠輔 (細川小) 岩川皓司 (竜南中)
- 鈴木奈穂子 (新香山中) 磯部 翔 (翔南中)
- 神島 将 (秦梨小) 永井丈流 (常磐中)
- 長谷川幸章 (矢作中) 野田啓太 (新香山中)
- 鈴木淳也 (新香山中) 鈴木広樹 (矢東小)

「そのきみ! やりすぎてない?」



大学入学共通テスト「情報I」所感

小豆坂小学校 校長 塚谷 保

バイクでのツーリングに出かける際は、さまざまな情報を集めて準備を進める。天候や愛車の状態はもちろん、よりよいルートや予想時間を見極めることも重要だ。慣れてくると余裕は生まれるが、身一つでまたがるのだから、車でのドライブとは一線を画すと実感している。

大学入学共通テストに、いよいよ「情報I」が登場した。問題を解いていくと、求められているものがよく分かる。例えば、知識を問われたのは「デジタル署名」と「IPアドレス」に関するもので、百点満点中たった四点分である。この二つについても、言葉を答えさせるのではなく、意味と役割を問うている。高校の教科書をめくると「アクセシビリティ」や「GUI」といった専門用語がたくさん出てくるが、単語として暗記することは求められていないということだ。人間は言葉で思考すると言われているから、正確に言葉を理解して使うことは大切だ。しかし、「情報I」で測られる主体は知識量ではない。情報活用能力を生かした思考力である。大問二は、レシートを販売促進に生かす例と、

会計係としてお釣りを事前に準備する例を取り扱っている。私はこれまでに、「情報」に就く必要と問題文を読むと答えられない。しかし、必要な情報や考える手順を問うている。大問三はプログラミングを取り上げており、少々苦労したが問われていることは変わらない。大問四に至ってはグラフの読み取りと箱ひげ図で数学教員にはお手の物。どれも、情報活用能力、すなわち「収集」「整理」「比較」「発信」「伝達」等を生かし、目的を果たすことが求められている。私たちは国語の授業で、文章を正確に読み取れるようになってほしいと願う。算数・数学の授業で、データを分析する力を高めたいと願う。これらは情報活用能力の育成に他ならない。唯一、プログラミング言語の使い方については、高校でふれる必要があるだろう。小中学校では教科・領域の本質を、情報活用能力の育成という観点で捉え直せばよい。伸ばしたい力が見えてくる。愛車の状態はすこぶるよい。整備の賜物だ。持ち物の準備やルートの想定も完璧である。さて、最後に、家族の機嫌を正確に読み取らなければならない。これが非常に難しい。

実践報告 II

「影絵にぴったり合う色板の並べ方は？」

男川小学校 長尾 有真

一年生の算数科「かたちづくり」で、「影絵に合うよう三角形を組み合わせて並べる」という課題に取り組んだ。さまざまな組み合わせがあることに気付くことができるよう、スクールタクトを用いて授業を行うことにした。

まず、児童は、家や船、魚の形になっている影絵とぴったり合うように色板を並べ、タブレットで写真を撮り、スクールタクトに貼った。児童は一人で問題解決に向かっており、色板の並べ方が複数あることには気付くことができなかった。

次に、スクールタクトを共同閲覧モードにして、互いに作ったものを見合った。「同じ魚の形だけど並べ方が違う」と発言があったり、形を作れなかった児童が他の作品のまねをしながら完成させたりと、視覚的に自分と友達の並べ方の違いを認識し、並べ方が複数あることに気付くことができた。

また、次時では自分の好きな形を

色板で作る活動を行ったが、同じ形で二通り、三通りと違う並べ方を考える児童の姿もあった。

スクールタクトの共同閲覧モードを使うことで、他者との比較が簡単に行えた。しかし、児童の中には、ただ友達の並べ方を見ているだけの子もいたため、教師が意図的に比較するキャンバスを選択し、電子黒板にミラーリングをして見せることで、より多くの児童が、算数の見方・考え方を働かせることができるのではないかと考える。



レッツ・トライ！情報モラル II

心地よいタブレット端末の利用を目指して

矢作西小学校 萩原 光彦

年度の初めに五年生は「おかぎきッズMyタブレット七つの約束」を守り、Myタブレットを大切に使うことを約束した。しかし、学習とは関係のないことに使用したり、スクールタクトの授業チャットで授業の内容とは別の方向へ話がそれてしまったりすることがあった。そこで、情報モラル学習サイト（文部科学省）を参考に、「正しいMyタブレットの使い方」の実践を行った。

まず、「学習の目的」以外でタブレット端末を利用している動画を視聴し、何が「学習の目的」と言えるかを考えた。

「授業に関係がないことは家で調べると、学校と家庭で使い分けを確認できた。

次に、チャット機能を利用した議論において主人公が不快な思いをする様子を視聴し、どのようなことに気を付けるとよいかを話し合った。「目的と関係があることを話してもよいと思うけれど、目的から離れすぎたとき、自分たちで修正できるとよかったと思う」という意見が出た。振り返りには、「みんなが気持ちよく勉強できるように、七つの約束があることが分かった」「何が正しい使い方なのか、自分で判断できるようにしたい」など、上手に使ってほしいとする気持ちが表われていた。

情報社会で生きていけるよう、適切な判断ができる「デジタル・シティズンシップ」をもった子供を、これからも育てていきたい。



ライブレジャーだよ

令和七年度新規貸出用DVD教材の紹介

◇情報モラル

・SNSで巻き込まれる犯罪

対象 中学生（約21分）

・SNSに何気なくのせたら？

対象 小学生（約16分）

◇コミュニケーション教育

・聞き方上手 話し方上手

コミュニケーションを身につけよう

対象 小学生（約19分）

・自分で考えよう みんなで考えよう

コミュニケーションのある学級づくり

対象 指導者（約27分）

◇防災教育関係

・みらいロボット

ミニーとハットの防災クイズ

対象 小学生（13分）

ここで紹介した教材も含め、さまざまな分野の教材を計七本購入しました。令和七年四月から貸出できるよう準備を進めています。皆様方の積極的な御利用をお願いします。

★編集後記★

実践報告やレッツ・トライへご寄稿いただいた先生方、ご協力ありがとうございました。

視聴覚ライブラリーでは映像配信システムの更新を機に、自作教材を主とする保有映像作品の教育ネット上での公開を今年から始めました。こうした新しい取組を続け、一層の視聴覚・情報教育の充実につながればと思います。

令和七年度もよろしく願いいたします。